

## 研修旅行の作り方 <その5>

### カウンターパート研修の事例

今回は、技術協力プロジェクトのカウンターパート（C/P）研修の事例について紹介する。C/P研修については第46号や第57号等でもすでに触れているが、その長所（強み）や短所（弱み）は次のように考えられる。まず長所としては、研修員がプロジェクト活動を行っていく上で、日常的につきあいのあるC/Pであるために、彼らの能力や研修ニーズが把握しやすく、それに合わせたカスタム・メイドの研修計画が策定しやすいことがあげられる。さらに、研修終了後も一緒にプロジェクト活動することによって、研修後のフォローアップも効果的に行うことができる。一方短所としては、研修期間が数週間程度と、比較的短期間になりがちである。研修内容も講義や見学等が多くなり、実技的な研修が不足する場合もある。こうした点については十分注意を払って、研修後のプロジェクト活動に有益なものとする必要がある。研修計画作成の基本的な考え方は、通常の研修とほぼ同様である。ここでは、二つの事例を挙げて具体的に考えてみたい。

シリア国の「節水灌漑農業普及」研修では、技プロの活動内容が試験研究（灌漑）、普及および研修と多岐に渡り、そ



これらの連携も重要であった。C/P研修では、これらの各要素を研修項目として取り入れつつ、それぞれの関係性や連携を考慮して、表1のような研修内容及びそのための講義・見学先の手配を行った。講義と見学の関連付けについては、日本の農業普及体制の講義のあとに普及センターを訪問したり、農協概論の講義とJA見学を結びつけるなどの工夫をした。さらに本研修の総括として、研修全体を振り返り、今後のプロジェクト活動にどう活かしていくかという点について、C/P及び日本人プロジェクトメンバーで討議を行った。

表1. シリア国「節水灌漑農業普及」研修

研修内容	主な講義・見学先等
試験研究と農業普及の実態とそれらの連携	日本の農業普及概論講義、茨城県農業総合センター
農協の成立ちや活動、及び農産物マーケティング	日本の農協概論講義、JA岩井、農産物直売所
灌漑事業や灌漑受益地等の現地訪問	霞ヶ浦用水灌漑事業・ポンプ場及び受益農家
普及員の能力強化や研修	農水省研修所つくば館、茨城県農業大学校

オマーン国の「マングローブ生態系管理」研修では、マングローブ林やその生態系の保全・管理、及び普及啓発のための環境教育が主な研修内容だった。このうちマングローブ林に関わる部分については、沖縄・西表島における講義・実習を配置し、より実践的なものになるようにした。環境教育に関しては、自然観察センターを始めとして国内のさまざまな関連機関を訪問して、展示手法や環境教育プログラムに関する情報収集及び体験を行った。



このうちマングローブ林に関わる部分については、沖縄・西表島における講義・実習を配置し、より実践的なものになるようにした。環境教育に関しては、自然観察センターを始めとして国内のさまざまな関連機関を訪問して、展示手法や環境教育プログラムに関する情報収集及び体験を行った。

表2. オマーン国「マングローブ生態系管理」研修

研修内容	主な講義・見学先等
マングローブ林の保全・管理	保全・管理・復元手法の講義 マングローブ林視察
マングローブ生態系のモニタリング技術	モニタリング手法講義・実習 動物相調査法、水質分析法
普及啓発や環境教育	谷津干潟自然観察センター、福島アクアマリン、ホールアース自然学校、GW三島

C/P研修では日本人メンバーも同行して研修内容を共有し、その後のプロジェクト活動につなげることも重要である。また、研修を通して知識や技術の習得だけでなく、日本の文化や実状にもできるだけふれてもらうことによって、日本や日本人に対する理解を深めてもらうことは、プロジェクト活動を円滑にかつ効果的に行うために有益である。